平成２１年度第１回石狩市学校給食センター運営委員会会議録

開催日時：平成２１年１１月２７日（金）
開催時間：１５時００分から１６時３０分
会　　場：市役所５階　第２委員会室
出席委員：東川、北條、山本、盛重、二俣、
菊地、高田、牧野、三上、大森、
佐藤（悦）
傍 聴 者：１名

会議次第

１．生涯学習部長挨拶
２．委員長、副委員長の選任
３．委員長挨拶
４．報　告
○平成２０年度学校給食費収納状況について
○学校給食費の状況について
・石狩市学校給食実施基準
・食材購入費の品目別割合
・各食材の購入単価の推移
・１食分の食材購入費のなかで、牛乳・主食・おかずの占める割合（小学校）
・牛乳・主食・おかずの栄養基準値での比率（小学校）
・果物・小袋類・デザート・行事食の年間使用回数Ｈ１８とＨ２１の比較（小学校）
・１食分の食材購入費のなかで、牛乳・主食・おかずの占める割合（中学校）
・牛乳・主食・おかずの栄養基準値での比率（中学校）
・果物・小袋類・デザート・行事食の年間使用回数Ｈ１８とＨ２１の比較（中学校）
・石狩管内市町の学校給食費の改定推移
・栄養充足率の向上に向けた検証モデル（小学校）
・栄養充足率の向上に向けた検証モデル（中学校）
・児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準（資料１）
・食品構成表　米飯・牛乳・おかずの部（資料２）
・食品構成表　パン・牛乳・おかずの部（資料３）

開　　会

○三国生涯学習部長挨拶
○委員長に二俣花川南小学校長、副委員長に高田浜益中学校長を選任
○二俣委員長挨拶

報　　告

（委　員　長）それでは、平成２０年度学校給食費収納状況について事務局より報告願い

ます。

（センター長）　１ページから２ページの平成２０年度学校給食費収納状況について報告

（委　員　長）　只今の報告について、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　以前、厚田区の収納率は、もっと高かったと思いますが、下がった理由等は分かりますか

（厚田センター長）　浜益区と厚田区に給食を提供していますが、浜益は収納率１００パーセントとなっており、厚田に関しましても例年どおりで、特に滞納が多いという事では有りません。

（委　　員）　この厚田と記載しているのは、浜益も合わせたものですね。

（センター長）　厚田と浜益を合計したものです。

（委　員　長）　他に無ければ、次に、学校給食費の状況について報告願います。

（センター長）　３ページから２２ページの学校給食費の状況について報告

（委　員　長）　それでは、３ページの石狩市学校給食実施基準について、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　安心・安全な給食の提供と言うことですが、使用食材の石狩産、道内産、国内産の大よその比率はどれ位ですか。

（栄 養 教 諭）　使用食材は、年間で石狩産が約３０パーセント、それを含む道内産が約６０パーセント、それらを含む国内産が約９９パーセント、国内で手に入らない香辛料関係が残り約１パーセントとなっており、香辛料以外の食材は、全て国内産を使用しております。

（委　　員）　加工食品、冷凍食品についても、同じようにきちんと見て使用していると言う事ですね。

（栄 養 教 諭）　全ての食材について、成分表、生産国、生産地等を記載した書類を提出して貰い、それらを確認して使用しております。

（委　　員）　給食センターは、石狩と厚田に有りますが、食材の仕入れ業者は、それぞれの給食センターで違うのですか。

（センター長）　市内には、旧石狩市地区に２箇所、厚田区に１箇所、計３箇所の給食センターが有り、仕入れは、それぞれの給食センターで行っており、厚田給食センターには、若干違う業者が入っておりますが、基本的には同じ業者となっております。

（委　員　長）　他に無ければ、４ページの食材購入費の品目別割合について、何か、ご意見等はございませんか。無ければ５ページの各食材の購入単価の推移について、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　この中で冷凍食品が、平成２０年度より平成２１年度の方が下がっている理由を教えてください。

（栄 養 教 諭）　グラフ上では、値上がりしているように見えませんが、コストの低いものを使う努力をしており、特に値下がりしている訳では有りません。

（委　員　長）　他に無ければ、６ページの小学校での１食の食材購入費の中で、牛乳・

主食・おかずの占める割合について、何かご意見等はございませんか。無ければ、次に、７ページの小学校での牛乳・主食・おかずの栄養基準値での比率について、何か、ご意見等はございませんか。無ければ、次に、８ページの小学校での栄養充足率のグラフについて、何か、ご意見等はございませんか。無ければ、次に、９ページの小学校での果物・小袋類・デザート・行事食の年間使用回数Ｈ１８とＨ２１の比較について、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　第２学校給食センターで中学校の給食と花川南小学校の給食を作っていますが、花川南小学校のデータは、小学校と中学校のどちらの方に反映されていますか。

（栄 養 教 諭）　中学校の方に反映しております。

（委　員　長）　他に無ければ、１０ページの中学校での１食の食材購入費の中で、牛乳・主食・おかずの占める割合について、１１ページの中学校での牛乳・主食・おかずの栄養基準値での比率について、１２ページの中学校での栄養充足率のグラフについて、１３ページの中学校での果物・小袋類・デザート・行事食の年間使用回数Ｈ１８とＨ２１の比較について、まとめて、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　中学校の栄養価の充足率が極端に悪いですね。以前、試食会の時の話では、１週間単位で見て、足りない分は、他の日で補っていると聞きましたが、それもクリア出来なくなって来ていると言う事ですか。

（栄 養 教 諭）　一昨年、樽川中学校で、お話した当時は、１週間の中で何とか抑えられましたが、年々、厳しい状況になって来ております。

（委　　員）　今年の１０月に花川南小学校の試食会で見たグラフもきついものが感じられました。

（栄 養 教 諭）　花川南小学校につきましては、小学校のグラフのとおり、ある程度充足されております。

（委　　員）　初歩的な確認ですが、小学校と中学校の給食メニューは違うのですか。厚田区に関しては、１箇所で作っているので、量だけが違うと認識していました。

（センター長）　第１学校給食センターでは、小学校の給食を作り、第２学校給食センターでは、中学校と花川南小学校の給食をそれぞれ作っており、厚田学校給食センターでは、昨年が、第２学校給食センターのメニューを使用し、今年は、第１学校給食センターのメニューを使用しております。

（委　　員）　厚田に関しては、小学校と中学校が同じメニューですので、この表は、当てはまらないと言う事ですか。

（栄 養 教 諭）　完全には一致しませんが、厚田につきましても、栄養士が栄養価を計算してメニューを作成しており、極端に栄養価が足りない場合は、品目を変更する等の調整をしておりますので、小学校・中学校それぞれのグラ

フのパターンに近い内容になっています。

（委　員　長）　他に無ければ、１４ページの石狩管内市町の学校給食費の改定推移について、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　石狩市は、１０年以上、給食費の改定を行っていませんが、今まで改定する考えは無かったのですか。

（センター長）　改定する考えは有りましたが、食材価格の高騰が一時的なものか、一過性のものかを見極めていたと言う状況ですが、かなり厳しくなって来ております。

（委　　員）　他の市町村でも石狩市と同じような給食作成基準に基づいて、給食を作っていると思いますが、一食単価に差が出ていますので、給食費をアップする事によって、栄養価の充足もクリアされると思います。これまで食材のやりくり等の努力で何とかやって来ていると言う事ですが、限界に来ているのではないかと思います。

（センター長）　おっしゃるとおりです。特に、中学校の単価２７３円は、他市町では、改定前の単価でも２８０円・２９０円となっておりますので、元々、低額なのが、お分かりになると思います。

（委　員　長）　消費税が５パーセントになった年に改定してから今日に至っている訳ですが、今、ここで賛成、反対を問うことでは有りませんね。

（センター長）　本日は、ご意見等をお伺いするだけでございます。

（委　　員）　参考までに改定する見通しや目安は、有りますか。

（部　　長）　この先、給食費の改定を考えているのではないかと言いますと、そのとおりの部分はございます。ただ、これまで、何故、１０年以上改定していないかと言いますと平成１５年・１６年頃から非常に経済情勢が悪化し、市民・国民負担の部分で様々なものが、値上げや有料化と言う事がございましたので、それが一つのポイントになっていたと思います。

今までは、食材のやりくりによって、何とか一食単価内に抑えられましたが、昨年来の原油価格高騰から来る食材価格のアップにより、それが、非常に難しくなり、輸入品の危険性が、ここ１～２年で、急に出て来ていると言う事も、困難な状況になった理由だと思っております。

それでは、どれ位のことを考えているかと言いますと検証モデルで、今、出させて頂いのが、今後の議論の参考になるのではないかと思います。一つの献立のモデルですので、この単価そのものを改定額とするような事にはならないと思いますが、理想的な栄養素を満足させる給食を作るには、大体、これ位、今は、掛かります。それから代用品によって圧縮しても、それを毎日続ける訳には行きませんので、それがラインとして出ている訳です。概ねこう言った部分の範囲内で、それがある程度目安になるのではないかと思います。また、今後、皆様のご意見を踏まえながら諮問と言う形で改定案を出させて頂くような時には、段階的にどう

なのか、何時からやった方が良いのか、例えば、小学校と中学校でも額のバランスが違う場合には、早急に中学生の方が必要ではないか等、色々な議論が有ると思いますので、こう言った状況につきまして、ご説明させて頂いた上で、ご自由な意見を聞かせて頂くと言うのが、本日の主旨でございます。

（委　員　長）　東川先生からご意見がありますので、お願いします。

（委　　員）　現状の給食費での問題点は、２つあると思います。始めに年度別栄養価の平均値ですが、この中で、特に、カルシウムと鉄分ですが、カルシウムにつきましては、過去５０年の調査で家庭では、９０パーセントしか摂取されないと出ておりますので、それを補うため給食が期待されており成長期の子供達のカルシウムの蓄積と言う事でも大事な栄養素となっております。それから鉄分ですが、これは、血液の造血と言う事で、特に、小学校５年生から発育急進期に入り、それから４年間で男子が、約１．６倍、女子が、約１．５倍に増えますので、その材料としての鉄分が不足しているのが、問題かと思います。それからもう一点、行事食が減っておりますが、今の学校給食法からは、少し逆行しているかなと思います。そこで、簡単に学校給食法の改正について、お話ししますが、現在の学校給食法は、生きる力を育む食の教科書、生きた教材となっております。学校給食法は、昭和２９年制定以来、大改革が行われまして、平成２１年４月１日から施行されております。その法律の目的には、学校給食の充実、学校給食を活用した食に関する指導の実施、これが新たに加えられました。そして学校における食育の推進を図る事となっております。それから目標ですが、学校教育の一環と言うことがより明確になされまして、今までの４項目から７項目になり、各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深める事などとなっております。それで、栄養教諭の役割ですけれども、校長先生のリーダーシップの基に栄養教諭が、指導する事になりますが、その中で、特に２点、食に関する指導を行うに当たっては、地域の産物を学校給食に活用すること、それから地域の食文化や食に関わる事を児童・生徒に対し、理解、増進を図るよう努めるという事になっております。そう言う意味では、この行事食は、子供達の楽しみでも有りますが、これらを伝えるとても大事なものだ思います。それには、適正な給食費と言うのが、大事になりますので、よろしくお願いします。

（委　員　長）　他に何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　先程の部長の説明で、輸入品の危険性が有ると話していましたが、石狩の場合は、外国産の食材は、殆ど使用していないので、直接価格に影響しないと思いますので、それによって、巷にある日本産の食材が上がると考えてのご発言と捉えてよろしいですか。

（部　　長）　先程、申し上げましたのは、中国製品関係の時のお話ですので、それを以って幾ら窮屈になったと言うよりも、そう言う意味では、値段だけを見た選択肢が過去５年間の中で狭まって来ていると言う趣旨で申し上げました。

（委　員　長）　他に無ければ、１５ページから１８ページの小学校の栄養充足率の向上に向けた検証モデルについて、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　モデル献立１で地場産食材使用の比率は、どの様に見ていますか。

（栄 養 教 諭）　年２回、実施している石狩デーの献立を基に作成しており、食材はデザート以外、約９０パーセント石狩産のものを使用した場合の献立を立てて見ました。

（委　　員）　初歩的な事ですが、モデル献立１と２は、実際に努力して実施していると言う事ですか。

（栄 養 教 諭）　１５ページが平成２１年のある日の現実の献立です。この栄養価の充足率不足を解消するため、作成した理想の献立が１７ページのモデル献立１ですが、価格が高くなっております。そのため、１８ページのモデル献立２では、デザートをカットして子供達に人気の有るひじきのりを加え、金額を抑えながら栄養価の充足率も満たしたものとなっています。また、栄養士としては、デザートは、月に３回位は出してやりたいと思っています。

（委　　員）　モデル１は、予算的に難しいので、別としてモデル献立２は、実際に作って提供しているものですか。

（栄 養 教 諭）　実際に提供している献立です。

（委　　員）　デザートは、月にどれ位出していますか。

（栄 養 教 諭）　平成２１年度は、３回ですが、行事食でも、例えば、クリスマスの時にケーキやデザートを提供する事もあります。

（委　員　長）　他に無ければ、１９ページから２２ページの中学校の栄養充足率の向上に向けた検証モデルについて、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　１９ページ、今年４月の献立での栄養充足率のグラフを見て大変だと思います。これは、１００パーセント完食した場合ですので、残食が有ればもっと悪くなる事になりますが、石狩デーの時の残食は、少ないですか。

（栄 養 教 諭）　当日は、農家の方に実際に作っている野菜を持参して頂いて、子供達が直接、野菜を見たり触ったり食べたり講義も行って頂いております。その体験後に給食を食べますので、残食は減っております。

（委　　員）　今後、残食の事も含めて、検討材料にして欲しいと思います。

（委　員　長）　他に何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　年間で残食の割合はどれ位ありますか。

（栄 養 教 諭）　主食を除いて、小学校で約２０パーセント、中学校で約２９パーセント

が残食となっています。

（委　　員）　残食の処理方法は、どのようにしていますか。

（センター長）　第１学校給食センターでは、敷地内に設置している生ゴミ処理機に残食を投入して、堆肥を作り、学校等の花壇に肥料として使用して頂いており、第２学校給食センターと厚田学校給食センターにつきましては、ゴミとして処理しております。

（委　員　長）　全体で、何か、ご意見等はございませんか。

（委　　員）　給食費の納付方法は、全て口座振込みですか。

（センター長）　基本的に口座振込みです。

（委　　員）　それでも浜益は１００パーセントですか。

（センター長）　浜益区につきましては、１００パーセントをキープしております。

（委　員　長）　他に事務局から何か、ございますか。

（部　　長）　今まで、ご議論、ご検討を頂きましたが、東川先生が丁度ある程度栄養充足率と言うものの確保に向けた改定についても検討すべきと、お話されましたけれども、そのことについては、必要だろうと言うのが、皆様方のご意見ではないかと思います。ただ、それぞれ個人皆さん違うと思いますので、こう言う事にも気を付けた方が、良いのではとか言うようなご意見が有れば、今一度、お聞かせ頂ければと思います。

（委　員　長）　何か、ご意見等はございますか。

（委　　員）　確かに、ここ何年間は、大変苦労されているなと思って見て来ていました。それと先程、景気が、ずっと悪かったので、なかなか言い出せなかったとお話されていましたけれども、それも理解しています。ここに来て景気が益々悪い状況にあるので、多少なり共、値上げとなって行くと市民の方からの反発と言ったらおかしいですが、そう言う事は、あるだろうなと思います。ただ、やはり、子供達の発育の事を考えると止むを得ないのかなとも思います。先程、言いましたように、そのためには、素晴らしい給食を作ったら是非、皆、食べて欲しいなと思います。やはり、今聞きますと２０パーセント、３０パーセントの残食が有り、これは、おかずの中だけのお話ですので、主食を加えたらもっと上がるのではないかと思います。それらの事を考えた時に子供達の嗜好と言うのも考えていかなければならないと思いますが、そうなると今の金額ではやっていけない事も理解出来ます。ただ、これから値上げと言う時は、私達だけではなく当事者であるＰＴＡの方への働きかけと言う事もきちんとやって頂きたいと思います。

（委　　員）　自分の子供達も給食のデザートが少なくなって、その寂しさ訴えています。今、表を見て食材の高騰や給食費の据え置きから来るやりくりの大変さも認識しておりますし、給食の配送には温度管理のためのコストも掛かるので、それらを含めて改定は仕方がないと思います、ただ、残食

処理等に掛かるコストの削減、残食を減らす等、自分達でも出来る事から改善した上で、改定しても良いのではないかと思います。あくまで要望です。

（委　　員）　給食費は、食材の購入のみに使用しているので、残食を減らす事は、給食全体のコスト削減にはなりますが、給食費は、下がらないと言う事になりますね。

（部　　長）　確かに納められた給食費は、食材費に充当と言う事になります。また、お二人とも残食のお話をされておりましたが、これは本当に大事な事でございまして、残食の処理には一般の税金が投入されておりますので、その削減は必要なことです。何より今回、問題としているのは、栄養価の充足率で有り、食べないと充足されないと言う事ですので、その辺は、給食センター職員、栄養教諭共々、子供たちが残さず、興味を持ち、楽しく、美味しく食べられるような給食を作ってまいりたいと思います。

（栄 養 教 諭）　今までも、子供達の好きな献立、栄養になる献立の工夫、作る時の楽しさ、生産されている方の苦労等を説明しながら給食指導で各学校を回って来ましたが、今後も残菜を減らす食指導を充実させるよう他の栄養教諭６名と協力して参りたいと思います。

（委　　員）　新教育プランでも食育が、うたわれていますので、栄養教諭だけではなく、学校現場でも実践して取組んで貰いたいと思います。また、今まで見て来て担任によって差が有り、給食についての語りかけを行なう等して頂ければ、残食の減ると思いますので、是非、現場でも出来るように教育プランでも進めて頂きたいと思います。

（委　員　長）　他に事務局から何か、ございますか。

（センター長）　次回の学校給食センター運営委員会につきましては、平成２１年度中に開催する予定ございますので、日時等が決まり次第、ご連絡申し上げますので、よろしくお願いします。

（委　員　長）　それでは、以上で、平成２１年度第１回石狩市学校給食センター運営委員会を終了させて頂きます。本日は、ご協力ありがとうございました。

平成２１年１２月２２日　議事録確定

石狩市学校給食センター運営委員会

委員長　二　俣　裕　人